

株主割当増資直前の貸借対照表

資産	2000円	負債	1000円
		資本	1000円

【株主割当増資直前の状況】

発行済株式総数は100株だとする。

PBRは1.2だとする。

すると、市場株価は12円（注：本来は市場株価からPBRは算出されます）。

そして、株式時価総額は1200円。

【設例】

ここで、株主割当増資を実施する。

2株につき1株ずつ新株式を発行し、発行価額は市場株価の6割とする。

パターン①:

「株主割当増資後の株式時価総額＝株主割当増資前の株式時価総額＋増資額」と考える場合

この時、市場株価はどのように変化するかと言えば、

株主割当増資直後の市場株価は、株主割当増資直前の市場株価の

$$(1 + 0.6 \times 0.5) \div (1 + 0.5) = 0.8666...$$

倍になる、つまり、

$$0.8666... \times 12\text{円} = \text{「10.4円」}$$

（もしくは、株主割当増資後の市場株価は次のように算出しても同じことです。

株主割当増資直後の市場株価＝株式時価総額÷株式数

$$= (1200 + 1200 \times 0.6 \times 0.5) \div (100 + 50)$$

$$= 10.4\text{円}$$

直接計算するか、市場株価の変化率から算出するかの違いです。）

この時、PBRはどのように変化するかと言えば、

$$10.4 \div \{(1000 + 360) \div 150\} = \text{「1.1470...」}$$

に変化する。

（もしくは、PBRは、株式時価総額÷資本額

$$= 1560 \div 1360 = \text{「1.1470...」}$$

パターン②:

「株主割当増資後の前後でPBRは一定である」

と仮定する場合

この時、1株当たり資本額は、

$$= (1000 + 360) \div 150 = \text{「9.0666...円」}$$

したがって、PBRは1.2で一定であることから、

株主割当増資直後の市場株価は、

$$9.0666... \times 1.2 = \text{「10.88円」}$$

に変化する。

この時、株式時価総額は、10.88円×150株＝1632円